



The 18th Annual Meeting of the Japanese Society of Lumbar Spine Disorders

第18回 日本腰痛学会

Spine Week
Japan
Sapporo 2010

プログラム・抄録集

会 期／2010年10月30日(土)

会 場／札幌プリンスホテル 国際館パミール館
〒060-8615 北海道札幌市中央区南2条西11丁目
TEL.011-241-1111 FAX.011-231-5994

会 長／星野 雄一 (自治医科大学整形外科学教室 教授)

第18回日本腰痛学会開催にあたって

会長 星野 雄一

(自治医科大学整形外科科学教室 教授)

第 18 回日本腰痛学会をお世話させていただきます自治医大整形外科を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

腰痛という病態は、厚労省の調査によると国民有訴率の第 1 位を占める程頻度が高く、しかしその割には病態の解明が進んでいません。とくに腰痛の 85%を占めるといわれている非特異的腰痛はその病態を現時点では特定できないため、原因に対する治療というサイエンスの根本原理に馴染みにくい特性があります。この非特異的腰痛の研究に重点を置き、その疫学、労働やスポーツとの関係、自然経過など、病態を科学的に解明するのが、本学会設立当時からの目的の一つであると思います。

一方、現実には生じている腰痛という病態に対しては、その原因が未確定であっても何らかの治療介入が臨床の場では求められ、ここに治療優先の医療技術の存在意義があると思います。非特異的腰痛に対して実施されている膨大な治療経験を科学的に分析検討し、その中から僅かであっても真実を見つけ出す努力を継続していく事も、この学会の大切な使命と考えています。

札幌での本学会は、脊椎関連の 3 学会が同じ会場で連続して開催される Spine Week Japan の初めての試みです。この試みは、日本脊椎脊髄病学会が核となり 8 学会が共同で 2010 年 1 月に創刊した Journal of Spine Research と期を一にしたものであり、北米、ヨーロッパと並んで鼎立するアジアの脊椎診療を我が国が主導しようという、意欲的な企図の一端でもあるのです。

多数応募を頂きましたが、査読の結果、優れていると判定された 90%の演題を、今回の学会では採用とさせて頂きました。

札幌の 10 月末は初冬に差し掛かる時期ではありますが、皆様には何卒ご来駕いただき、熱い討論にご参加頂きますようお願い致します。